平成２９年度　第１回生涯学習審議会（第６期第３回）　議事録

１　日　時

○　平成２９年５月１７日（水）　１４：３０～１７：００

２　会　場

○　県庁７号館　７４２号室

３　出席者

○　宮崎県生涯学習審議会委員　※別紙

４　開会行事

○　教育次長あいさつ

５　説　明

○　第２回審議会のまとめと答申の骨子案について　（※事務局より説明）

議　長　審議を進めるにあたって質問等はないか。

委　員　宮崎という表現が、漢字とひらがなの両方があるのだが、どのように使い分けるのか。

事務局　答申においては、県の総合計画に合わせてひらがなの「みやざき」を使うことにしている。

議　長　質問がないようなら、これからはグループでの協議とする。

６　協　議

「持続可能な地域社会を創るみやざきならではの生涯学習の在り方について」

※小グループによるワークショップ形式の協議

事務局　各グループの報告をお願いしたい。

委　員　（Ａグループの報告）

まず始めに「みやざきのよさ」を考えた。「人」として、温かさやつながり、きずな、思いやり、という気質が宮崎にはある。「時間」として、宮崎はゆったりした時間の流れを感じることができるという良さが出された。これらは、良いところでもあるが「受け身」的であるので、みやざきならではの学びとして考えたとき、積極的に知ることが大事なのではないか。

学びの内容としては、歴史、伝統、文化、自然、食、認知症などの課題などがある。

学ぶ方法として、単発ではない、日常化した学び、やることが目的にならない、地域づくりに将来つながる手法、などが必要である。

また、宮崎の人の気質を生かして、地域の組織体制を整備したり、地域の高齢者のサポートをしたり、お互いの顔を知るということが必要である。

これらを通じて、人と人とのゆるい結び付きが大切であり、学びだけを考えずに、持続していくことを考える必要がある。

委　員　（Ｂグループの報告）

まず、前回の「みやざきのよさ」を大きな軸で改めて確認をした。次に「みやざきならではの学び」をどのような軸で考えるかの協議をしたが、エリアごと、市町村ごとでかなり違うという議論になった。さらに、住んでいる人たちにとっての「学びの場」はどこかということで、公民館や図書館、学校などが出された。そして、県民は公共施設をどのくらい知っているか、情報が共有されているかという議論になった。次に「誰が」という視点で、世代別に学びを考えた。植物の成長にたとえ、

「種（就学）前」は子育て支援のサービスだけでなく親の学び

「双葉（小中学校）」子どもを巻き込みながらＰＴＡ活動を通した親の学び

「本葉から蕾（高校生、青年）」地域とからむカリキュラムづくりなどの学び

「花（大学・社会人）」人が集う仕掛けづくり（成人式など）、企業や職場での学び

「実（高齢者）」一部の人が多くの役割を担っているので、みんなで役割を担いあえる学び→公民館などでの交流

青年期の育て方が難しい。種から実をつけるまで、大切なのは、「土」である。「土」は、社会教育行政やそれに関わる人たちである。また、広報の仕方にも課題がある。

委　員　（Ｃグループの報告）

生涯学習の在り方から考えた。人と触れ合いながら学ぶのが生涯学習である。それぞれの場所やジャンルによってよさは違うが、そのよさを知っていただくことが学びである。現在、様々な地域づくりは既に行われている。それをどうつなぐか。

私もコーディネーターをやっているが、地元の人が地元のことを知らない。ただ、行くだけでなく、地域づくりの取組を知っていただくことが生涯学習である。これらのつなぎ役がコーディネーターである。しかし、コーディネーターを、ボランティアで置くのでは永続的なものにならないので、施策の中にしっかりと位置付ける必要がある。文科省も「社会に開かれた教育課程」というキーワードを出して、追い風となっている。

事務局　各グループの報告に対し、質問等はないか。

委　員　Ｂグループで捉えている「学び」と、Ａグループで捉えている「学び」は少し違うように感じたが、Ｂグループが意識されている「学び」について聞きたい。

委　員　まず世代ごとの日々の生活課題から「学び」を整理した。具体的な方策までは時間がなくて出せていないが、この課題が、Ａグループの具体的な内容につながっていくと考えている。

委　員　どのグループも最終的は「人」につながっているのではないか。Ａグループは、地域を創る担い手ということで、人から学ぶ、人を生かす、という所につながる。Ｂグ

ループは、人の成長を植物に例えて「種」から「実」がなり、また「種」ができるというつながりを話し合われている。Ｃグループは、始めから人のつながりを生涯学習の在り方として仮定している。みやざきならではの「学び」は、人につながっていくのではないか。人がいないとモノもカネも産みだせない。

委　員　みやざきの良さは、たくさんあって、教科書等で学ぶこともできるが、人と触れ合うことで、わかるみやざきの良さ、を大事にするべきではないか。
　ただ、人と人のつながりを嫌がる人もいるので、Ａグループの「ゆるくつながる」というのが、みやざきらしさだと感じた。

委　員　Ｂグループの種から始まって種というサイクルの考え方であるが、高齢者が若い人につないでいきたいということがあるが、この考え方がまさに合致している。

委　員　ただ、このサイクルを続けることが難しい。

委　員　Ｃグループはそこをコーディネーターが担う必要があると考えた。学校の現場も忙しい。コーディネートする役割があれば、持続可能につながっていくのではないか。意気込んで始めても、学校も地域もお互いが疲れ果ててしまうと機能しなくなってくる。

委　員　コーディネーターを仕事としてできないのか。

委　員　色々と難しい問題で、想いだけでコーディネーターをやっている人もたくさんいるので負担もかかるが、仕事としてやっていくと、人のつながりが薄れてくる可能性もある。地域にいる方だといいが、外部から仕事として入ってくると少し変わってくる。

委　員　地域の担い手は必要であるが、本県の所得水準を考えると自分の生活だけ精一杯というところがある。

議　長　次の審議会までに具体的に展開できるように、事務局に道筋についてまとめていただきたい。
　時間が来たので事務局にお返しする。

７　閉会行事

○　生涯学習課長あいさつ
○　諸連絡
　※今後の審議日程について